

SASUE LIBRARY
町立
指江図書館
TEL0996-88-6500



17文字のリアルなつづやき
をお楽しみください。

女子会川柳
シテイリビング編集部+ポプラ社編集部 編

TAKANOSU LIBRARY
町立
鷹巣図書館
TEL0996-86-1111



認知症の母との実体験をもと
に描かれた本です。笑えて泣け
ます。

ペコロスの母に会いに行く
岡野 雄一 著

町立図書館おすすめ

BOOK

図書館においてある本の中から
おすすめのことをピックアップ。
バラエティに富んだ本を紹介します。

Pick Up publication

長島
文芸

Nagashima Bungai
ながしまぶんげい

明神俳句会

大寒や海峡の渦蒼く炎ゆ
寝過ごすな一言添へて寒見舞
焼き芋の大ぶり小ぶりじゃんぽん
雑煮箸捏ねてめでたや今朝の膳
初メジロ群れて飛び交ふ古墳かな
段畑の百段千枚初山河
ねんねこに伝はる嬰の寝息かな
三年を綴るつもりの日記買ふ
揺らぐ火に願ひを込めて鬼火たく
大寒の澄みし星空山の朝
初漁や思ひきり水脈ひろげゆく
正月や母のいびつな餅を焼く

長島短歌会

物静かなれど笑顔の忘れ得ぬ友は病む夫残し逝き
しと
日の光杉の間に照り映えて屋根の白霜徐じよに融
けゆく
潮引きて磯焼けのせし石の面に番の海鳥鳴き交は
しをり
ひたむきに初孫喜びし姪逝きて五年経ぬ孫も三人
増えて
人形を人と思ひて繰り返す胸骨圧迫心をこめて
窓越しに樹木の揺るる彼方には雪雲切れて移り行
く見ゆ
わが夢にたまさか微笑む人見しを亡夫と思ひて起
き上がりたり
悴みし幼きわが手握りつつ温めし祖母の手年経て
思ふ

洗わんと作業着を叩き零れ出る百円ふたつ温もり
てをり
坂道を父親と上り笑顔向けランドセル揺るる女児
を見てみつ
静脈の透き見ゆる手に文字を書く乱るも書けるは
有難きかな
吐息つき囲炉裏の灰に文字を書く亡き父ありきわ
が幼き日
ためらはず乳飲み子を連れ下刈りの昔は山に猪が
居らざり

創生短歌会

温寒の境に堪えてびつしよりと内側濡れている窓
硝子
いくたびもわが家の家計助けきし実家の稲田は荒
るにまかす
桐の木の枝払われし青幹は目鼻もあらぬ人のごと
立つ
食い物の合わざるわれに来よと言う嫁の誘いに踏
み切れずいる
昨日より空家となりし友の家ひとめぐりして猫の
目とあう
八十年使いて古りし手と足がまだまだ動く働きを
する
砂浜に流れて来たる貝殻の自伝消したるとき白
さよ

一般作品

「短歌」
良い国を力ら合せて成す事よ拗れなくして良成す
事よ
太平の世に哀しく親と子の断絶知りて吾を見つめ
る
朱に染まるはるかな富士の輪郭に鳥ら向かひて元
旦暮るる
老松に風の音あり山門をお参り並び進み手合わせ
「俳句」
妙身となり我取り巻くか春の精